日本生体医工学会 2023 年度第 5 回理事会議事録案

日時：令和 6 年 3 月 15 日(金)　14:00～17:00
会場：オンライン

＜Web 出席者＞
理 事 長：　黒田 知宏
副 理 事 長：　芦原 貴司、原口 亮
理 事：　小川 充洋、加藤 博史、川田 徹、木村 裕一、佐久間 一郎（兼 関東支部長）、白石 泰之、杉町 勝、中島 一樹、成瀬 恵治（兼 中国・四国支部長）、平田 雅之、前田 義信、松村 泰志、松本 健郎（兼 東海支部長）、守本 祐司、山家 智之、横澤 宏一
監 事：　大城 理、村垣 善浩
＜オブザーバー・出席者＞
事務局長：　磯山 隆
幹 事：　板井 駿、木村 雄亮、坪子 侑佑（兼 若手研究者活動 WG 長）
オブザーバー：　家入 里志（九州支部長・第 63 回大会長）、大橋 俊朗（北海道支部長）、鍵山 善之（甲信越支部長）、杉本 直三（関西支部長）、高田 宗樹（北陸支部長・第 64 回大会長）、森 健策（第 62 回大会長）、福岡 豊（編集委員長）、鈴木 孝司（臨床研究法 WG 長）、学会支援機構（山﨑）、株式会社 PCO（青木、松澤）
＜欠席者＞
理 事：　西條 芳文、坂田 泰史
監 事：　椎名 毅
オブザーバー：　渡邉 高志（東北支部長）

＜理事会議題＞

0. 理事会の成立　黒田 理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 19 の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 2023 年度第 4 回理事会議事録案【審議 A】　黒田 理事長

2023 年度第 4 回理事会の議事録案の概要について理事長より報告された。本内容について、全会一致で承認され、もし内容についてのコメントなどがあれば、3 月 18 日までにご連絡いただくこととした。

2. ME 技術教育委員会報告及び委員会事務所移転に伴う修正覚書について【報告・審議 H】　守本 理事

第一種 ME 技術実力検定試験案内のポスター内容に誤りがあった旨が報告された。具体的には日付が誤って記載されてしまっていた。そのため正しい日程が記載されたポスターを再印刷・再送する必要が出てしまい、このための費用として新たに 60 万円程度の追加コストが発生したことが報告された。本件の再発防止策として、現状は元データを委員および事務局の数名で管理しており、最新版の誤認が起こったことが今回の事故原因のため、版の管理を一元化し、Version 管理を徹底する。更に校正に関して、委員全体で確認しクロスチェック体制を確立する旨が報告された。

続いて、ME 技術教育委員会事務所移転に伴い、覚書の修正を行いたい旨が報告された。具体的には所在住所の変更、旧事務所への保証金の返金、家賃の差額分の支払い、およびインボイス対応のためのコスト増加に関する内容が修正された旨が報告され、内容に問題などないかご確認いただきたい旨が報告された。

本件について、水光熱費の単価が上がっているが、旧事務所時とほぼ同額で問題ないのか質問され、旧事務所と比較し部屋が狭くなっているため、単価が上がったとしても現状維持で問題ない旨が回答された。

以上より、覚書の修正について全会一致で承認された。

3. 2023 年度荻野賞について【報告 K-1】　松村 理事

2023 年度日本生体医工学会荻野賞の受賞者候補者について報告された。前回の理事会でも報告されたように、本年度の荻野賞へは 1 名の応募があったが、申請書類内に研究成果の記載がなく、研究計画のみであった。そこで過去の受賞者ものと比較し、適切な内容かどうかを検討した結果、例年と比較し同じレベルとは言えず、また一年間という短期間での完結が難しく、本年度は受賞者なしと判定し、委員全体の了解を得た旨が報告された。

本年度の荻野賞は受賞者なしという判断について、全会一致で承認された。

4. 2023 年度研究奨励賞・阿部賞候補者選定について【報告 K-3】　松村 理事

2023 年度研究奨励賞・阿部賞候補者を選定委員会において審査し、以下の 5 名の受賞候補者を選定した旨が報告された。

①

講演者名：藤井 一真（東京電機大学大学院）

講演演題：O1-4-2-3 再建乳房術中支援のためのリアルタイム乳房形状差導出システム

共著者等：和田 直正、千葉 慎二、鈴木 孝司、鷲尾 利克、辛川 領、矢野 智之、荒船 龍彦

②

講演者名：柴田 和樹（東北大学大学院医工学研究科）
講演演題：O2-2-2-1 数値流体力学とディープラーニングの連成による血行動態解析の高速化手法の開発
共著者等：柴田 和樹、白石 敬一郎、太田 信、安西 眸
③
講演者名：沢崎 薫（東京都立大学）
講演演題：O1-2-2-6 壁せん断応力環境下における内皮細胞と共培養した血管平滑筋細胞の形態変化
共著者等：中村 匡徳、木村 直行、川人 宏次、藤江 裕道、坂元 尚哉
④
講演者名：牟田口 淳（九州大学病院泌尿器科）
講演演題：O3-4-1-6 膀胱鏡画像における tiny-YOLO を用いた腫瘍検出
共著者等：小田 昌宏、猪口 淳一、森 健策、江藤 正俊
⑤
講演者名：菅沼 雄太（藤田医科大学大学院 保健学研究科）
講演演題：O3-3-1-3 PET/CT 画像を対象としたアンサンブル手法による多臓器自動抽出 -事前学習モデルの比較検討
共著者等：寺本 篤司、齋藤 邦明、藤田 広志、鈴木 結紀、富山 憲幸、木戸 尚治

上記 5 名について、受賞条件を満たしているか事務局で確認したところ、③の方以外の方は非会員であることが判明した。そのため、非会員である 4 名には受賞者候補に挙がっている旨、受賞のためには会員になっていただく必要がある旨をご連絡し、会員となっていただいた場合は受賞とする旨が報告された。

本件について、その他の条件（発表時の年齢が 35 歳以下である、1 度目の受賞である、など）は満たしているのか質問され、1 名のみ年齢が 35 歳を超えている可能性があるが、それ以外の方については満たしていることを確認済みである旨が回答された。

以上より本受賞者候補について、全会一致で承認された。

5. APPW2025「他学会連携シンポジウム」企画の共催について【審議 W-7】　黒田理事長

2025 年 3 月17 日（月）～19 日（水）に幕張メッセにて、第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会（APPW2025）合同大会が開催される。本大会について、日本生体医工学会との共催のシンポジウムを開催したいとの連絡を受けた旨が報告された。本共催にあたり、共催費などの費用は発生せず、特にメカノフィジオロジーの重要性、可能性についての討論の場とすることを目的としている旨が報告された。

APPW2025 でのシンポジウムの共催について、全会一致で承認された。

6. 2024年度事業計画書および収支予算書【審議B】　中島（一）理事

2024 年度事業計画の予算内訳について報告された。基本的に例年通りであるが、2024 年度より新たに齋藤奨学金に関する支出 150 万円が新たに計上されている旨が報告された。本支出分については、寄付金によって賄う形となっており、選奨に必要な事務経費についても、本寄付金より使用させていただく予定である旨が報告された。また 2024 年度は更に、事務局移転による追加費用が発生することが報告された。移転後の事務局運営費についてはこれまでと同様の金額である。

本件について、齋藤奨学金の審議はいつ終了するのか質問され、齋藤奨学金についてはまだ内閣府で審議中であるが、寄付金の受け取り自体は公益委員会において既に認められており、年度が替わり次第受け取って問題ない旨が回答された。

7. 2024・25年度の理事・監事選挙結果報告について【審議L】　川田 理事

2024・25 年度の理事・監事選挙の結果について報告された。本選挙は誤表記のため、被選挙権がない先生（具体的には理事 4 期目となっている先生）が被選挙人のリストに含まれており、多数の無効票が発生したため、理事選挙のみ再選挙を実施した旨が報告された。投票率について、1 回目は 76.9%、2 回目は 86.1%であった旨が報告された。本選挙により、理事候補者 9 名、および監事候補者 1 名が決定した旨が報告された。

続いて、理事長の選任について報告された。現状の次期理事長・副理事長候補者選出規定では、第 4 条に理事長の選任は選挙実施後、新しい理事候補者を含めて選定され、現理事長は再任できないとされている。しかし事務局の移転や、選挙規定の大幅な改定の必要性などの事情が重なっており、この状況での理事長の交代は芳しくないという意見が出ており、本規定の変更が必要なのではないか意見が出された。

本件について、理事長の在任期間を 1 期で制限せず、必要に応じて 2 期以降も継続いただくことも必要であるとの意見が出された。しかしただ上記の規定を削除するのみでは無制限の任期を認めることとなってしまうため、特段の事情などの合理的な理由が存在する場合のみなど、ある程度の条件は定めるべきであるという意見が出された。これに対して、理事長は理事より選出されるものであり、理事の連続在任は最長 4 期の制限があることから、第 4 条の停止をもっても理事長の在任期間は最長 4 期となることが指摘された。

以上より、特に本年度、および次年度は事務局の移転、および選挙規定の大幅な改定が必要となるため、第 4 条は一時的に停止、現理事長の継続を可能とし、詳細な選挙規定の改定については次回以降の理事会で行うこととした。本内容について、理事長を除く理事全員の賛成により承認された。また、次期理事長の選出は鹿児島大会 2 日目の社員総会後、臨時理事会にて行うこととした。

続いて、理事会推薦枠理事について、2 名の理事候補が提案された。1 名は小野 弓絵 先生（明治大学）である。こちらは現在編集担当理事である横澤 理事が次期監事候補となったため、編集委員会の機能を維持していただける理事候補が必要であり、現編集委員会編集委員長である小

野 先生が適任であると考えられたためである。2 人目は、荒船 龍彦 先生（東京電機大学）である。荒船 先生は若手研究者活動 WG 長を長年務められた経験があり、若手理事の登用の観点からも適任であり、理事になられた際には、現在、原口 理事が担当されている学会の価値向上を目指す取り組みを企画委員会に移譲して継続し、企画担当理事をご担当いただきたい旨が提案された。

本提案について、次点者の中で、上記業務の担当ができる先生がいないか確認すべきである旨が報告された。次点者のうち、松村 泰志 先生からはご辞退の連絡受けている旨が報告された。また、その他の先生についても、編集委員会や若手研究者活動WG等の委員会経験歴がある先生はいらっしゃらず、特に理事は会務を多く含むため、これらの経験がおありである先生が適任である旨が回答された。

以上より、上記 2 名を理事候補としてご連絡し、お断りされた場合は次点者の先生に理事を依頼することとした。

8. 医機連との倫理指針運用該当性に関する適否判断フロー（デシジョンツリー）改訂作業について【審議 P-1】　杉町 理事・鈴木 臨床研究法 WG 長

一般社団法人 日本医療機器産業連合会（医機連）が 2016 年 3 月 31 日に公開した「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」適用該当性に関する適否判断フロー（デシジョンツリー）」の見直しが開始されており、日本生体医工学会との共同議論が提案された旨が報告された。

臨床研究法 WG のメンバーでもある医機連側担当者の増田 茂樹 氏（法制委員会 人を対象とした研究等の指針等への該当性検討 WG 主査）との打ち合わせにより、改訂について以下の方針とした。

議論の形態・方向性

・臨床研究法 WG が主体となり、2 か月に 1 回程度のペースで会議を開催する。
・医機連からは数名の代表者が参加し、議論内容は医機連側 WG に持ち帰り、検討した結果を次回会議で報告する。
・医機連と臨床研究法 WG の両方のメンバーである増田氏が議論の牽引役を担う。
・厚労省研発課には、適宜相談・報告を行い、必要が生じた場合にオブザーバー参加を要請する。
・本年秋頃には一定の結論を出す。

論点・改訂すべき内容

・作成から 8 年と年月が経ち、指針の改訂などもあったことから、全体的な文言の調整を行う。
・医療機器の承認・認証申請に必要なユーザビリティ試験の位置づけを盛り込む。
・QMS 省令(第 35 条 設計開発バリデーション)を曲解して、本来ならば倫理指針下で行うべき様々な試験を適切に実施していない事業者に対して、正しい試験のあり方を周知する。
・臨床研究法の定める臨床研究とならなかった場合、倫理指針下での実施の必要性がある場合もあることを明らかにする。

議論の成果の周知方法(予定)
・生体医工学会ウェブサイトへの掲載
・生体医工学会誌への解説論文としての投稿
・医機連ウェブサイトへの掲載
本件は、あくまで倫理指針についての改訂であり、以上について全会一致で承認された。

9. 来年の福井大会について【審議 Q-1】　前田 理事

2025 年度の第 64 回日本生体医工学会大会の準備状況について報告された。

髙田 宗樹 先生（福井大学）を大会長として、2025 年 6 月 5 日（木）～7 日（土）に、フェニックスプラザ（福井県福井市田原 1 丁目 13 番 6 号）にて開催され、懇親会は 2025 年 6 月 6 日（金）時間未定で、会場はハピテラス（福井県福井市中央 1 丁目 2-1）を予定している旨が報告された。

また、参加費は第 63 回鹿児島大会と同様に設定しており、参加者数も鹿児島大会と同様の 800 名規模を想定しており、収入が 19,819,000 円、支出 18,200,000 円で、予備費 1,619,000 円を計画している旨が報告され、うち本部助成金 3,000,000 円を希望したい旨が依頼された。

以上に対して、本部助成金の支出について全会一致で承認された。

また、名古屋大会で実施したコニカミノルタポスター賞が今年も予定されているのかについて指摘があり、これに対して、第 63 回鹿児島大会でも申請中であり、第 64 回大会においても継続して申請を予定する旨が回答された。

10. 2023 年度専門別研究会の活動状況並びに 2024 年度への継続、再設置、新設【審議 Q-2】　木村 理事

2023 年度専門別研究会の活動状況並びに 2024 年度への継続、再設置、新設に関する評価結果について報告された。

2023 年度専門別研究会の活動状況を審査し、2024 年度への継続の可否を審議し、また、1 件の研究会新設の可否について審査した。評価委員会の構成は、 木村 裕一 学術担当理事、山家 智之 総務担当理事、中島 一樹 財務担当理事、芦原 貴司 副理事長（前学術担当理事）、原口 亮 副理事長（元学術担当理事）、前田 義信 理事であり、2023 年度第 4 回理事会で承認されている。

評価方法及び基準については、

1. 2023 年度での学術集会の開催回数と、2024 年度での開催予定回数のうち、少ない回数を以て、 当該研究会の 2024 年度の配分額の算定根拠とする 。尚、学術集会には、大会での企画セッションの開催を含める。
2. 配分額は、学術集会の開催 1 回当たり 25,000 円とし、上限を 100,000 円とする。
3. 研究会の設置期間は 3 年までとする。
4. 研究会会長 以下、会長 の任期は 3 年とし、原則一期に限って再任を可とする。

5. 会長及び連絡担当幹事、正会員でなければならない。

として検討し、2024 年度の配分額を算定した。

既存の全 21 研究会については、設置期間内であるため継続、あるいは設置期限を迎えることから再設置の申請がなされたため、解散する研究会はない。

評価結果として、全ての研究会が活動を合理的に進めており、継続及び再設置の全てを認めるべきであるとした。

また、「病院環境とデザイン問題に関する研究会 」の新設が申請されたが、当該研究会の会長予定者が、既存の「新発想医療デバイスと医工学人材育成研究会」の会長と同一であった。評価委員会において、会長は当該領域の研究活性化に対して指導的な立場を取るべきであるが、複数の研究会の会長を兼務することで、個々の研究会の活動に支障が出ることを懸念するという指摘があった。そこで、当該研究会の新設を保留とした上でこの旨を申請者に勧告し、会長就任予定者が変更された時点で、新設の可否を議論することとしたい旨が報告された。

なお、新設の場合の配分額は、2024 年 4 月からの満額を原則とし、当該研究会が新設された場合、全 22 研究会への補助の総額は 160 万円となる旨についても報告された。

以上について、全会一致で承認された。

また、事務局移転が予定されているため、4 月に入ったら新事務局から専門別研究会の連絡をしたく、広報担当のメールアドレスを教えていただきたい旨が依頼された。

これに対して、新事務局のメールアドレスの使用が提案されたが、本会で取得している @jsmbe.org のドメインを使用したいと回答があった。@jsmbe.org のドメイン使用手続きに時間がかかることを考慮して、本件については新事務局メールアドレスでの周知を行い、事務局移転が完了ののち改めて手続きを検討することとした。

11. 科研費へのパブコメについて【報告 Q-3】　木村 理事

日本学術振興会から募集された、科研費の審査に係る審査区分表の見直しへのパブリックコメント募集について、本会会員から寄せられた意見を取りまとめて提出した旨が報告された。

審査区分表における、

・中区分 90「人間医工学およびその関連領域」の継続

・小区分 90140（医療技術評価関連）の例に、「医療法学、医療経済学」の追加

・小区分 90150（医療福祉工学関連）を（医療福祉関連）に改名したうえで、例として
「臨床医療支援工学、医療安全支援、遠隔医療支援、災害医療支援」の追加

・小区分 90160（医療ソフトウェア-工学）を新設し、小区分の例として、
「人工知能の医学応用、IoT、ウェアラブルデバイス、医用ロボティクス、仮想現実感、
拡張現実感、複合現実、医療サイバーセキュリティ」の追加

を提案した。

なお、上記改定が必要な理由として、

「生体医工学領域の研究開発は、医学・福祉領域に広く貢献するものであり重要であることは論を待たない。又、大区分 I の医学領域は概ね診療科単位で設定されているが、診療科を

越えた医工学の研究開発が重要であることは、近年のAIを用いた診断治療技術の研究会発達の状況から明らかである。」

と記載した。

また、審査全般における自由記載として、

・AIの台頭など、技術革新がますます早くなってきているので、審査区分の見直しは、2ないし3年毎が好ましい。

・医工学領域で顕著な異分野と連携する課題に対する評価の仕組みが無いことは残念である。異分野融合に対する加点、或いは異分野融合に特化した申請枠を設けるべきではないか。

・審査の時期が、学年末に向けた学生指導に対する負担が増加する時期と重なっており、審査側の負担が増えているのではないかと危惧する。アカデミックなカレンダーを考慮した時間進行を希望する。

と提案した旨が報告された。

12. 2023、2024 サマースクールについて【審議・報告 S-1】　坪子 若手研究者活動WG長、木村（雄） 生体医工学サマースクール2024実行委員長

若手研究者活動WGより、2023年度収益金に基づく2024年度のインセンティブ申請と、2024年度の生体医工学サマースクール開催概要、および選奨申請がなされた。

まず、WGの事業活動として実施したサマースクール2023の収益金234,773円のうち、収益金の半額を上限とする規約に基づき、117,000円のインセンティブ運用が申請されたが、資料提出時から最終収支が変更となったため、収益減を反映させ、減額した金額で承認いただきたい旨が報告された。なお、インセンティブ経費の使途は、生体医工学サマースクール2024の準備金として充当される予定である旨も報告された。

以上に対して、申請額の変更は減額方向なので、上記117,000円を上限として承認することとし、修正版の申請書類を事務局に再提出していただくこととした。

次に、生体医工学サマースクール2024の開催概要について、木村 雄亮 実行委員長より報告された。

生体医工学分野の研究者や学生が、医療従事者やビジネスパーソンなど多様な参加者と異分野交流を深め、協働して医療現場の課題を解決するコンセプト提案やサービスプロトタイピングを行うことで、課題解決型の思考力や実践力を養うことを目的とする。

2024年度は、2019年度以来の現地開催として、

日程（予定）：2024年8月26（月）～27日（火）

会場（予定）：ホテル マホロバ・マインズ三浦

〒238-0101 神奈川県三浦市南下浦町上宮田3231

実行委員長：木村 雄亮（量子科学技術研究開発機構）

実行委員：荒船 龍彦（東京電機大学）

板井 駿（東北大学）
土井根 礼音（東都大学）
西川 拓也（国立循環器病研究センター）
前田 祐佳（筑波大学）
として準備中である旨が報告された。

また、当該サマースクールにおいては、上記インセンティブ経費の運用に加えて、昨年度までと同様の本部補助金 500,000 円をご承認いただきたい旨が報告された。

上記に対して、本部補助金 500,000 円の支出が全会一致で承認された。

さらに、2024 年度においても、優秀な発表へのアワード贈呈を予定している。生体医工学サマースクール 2024 において実施されるハッカソンイベントで、優秀なアイデアを考案し、発表したグループならびに個人を表彰することとして、

選奨予定日： 2024 年 8 月 27 日
選定委員会委員長名： 西川 拓也（M 系）
選定委員会委員名 ： 荒船 龍彦、黒田 嘉宏、桑名 健太、坂上 友介、永岡 隆（E 系）
贈呈品：賞状（表彰者：実行委員長 木村 雄亮）
受賞の員（編）数 ： 最優秀賞 1 チーム、相互投票賞 1 チーム、最優秀 1 分プレゼン賞 1 名
受賞の条件：当該サマースクールに参加し、発表した者・チーム
その他：最優秀賞ならびに相互投票賞はチーム全員を対象とする
として選奨申請がなされた。なお、賞金、および記念品の贈呈は予定しない。

上記について、全会一致で承認された。

13. 臨床 ME 認定士新規・更新申請書【審議 T】　加藤 理事

臨床 ME 認定士合同認定委員会の、2023 年度の臨床 ME 専門認定士の新規申請、ならびに更新者について報告された。

まず、新規申請者 48 名について、書類不備等なく全員の新規認定が承認された旨が報告された。

次に、更新申請者について報告された。149 名の更新対象であったが、うち 4 名に書類不備があり、事務局からのリマインドに対しても回答がなかったため、当該 4 名の更新認定を不可とした。また、実務経験不足の理由書提出が 2 名よりあり、委員会での議論に基づいて当該 2 名の更新を認定した。計 145 名の認定となり、内訳は、更新 1 回目：46 名、2 回目：40 名、3 回目：45 名、4 回目：14 名であった。

なお、理由書提出者の扱いについては、理由書提出をデータ上記録しておき、次回更新時に同じようなことが続くかを含めて状況を加味して認定の可否を議論する方針としたことが併せて報告された。

上記に対して、実務経験不足の理由書提出者 2 名の理由が妥当であったかについて質問があり、体調の問題、就職先未決定に対して、委員会で妥当であると判断した旨が回答された。

以上、新規申請者 48 名、更新申請者 145 名の認定が全会一致で承認された。
なお、理由書提出に対する取り扱い等の規約が存在するかについて調査いただくこととして、規約がない場合には今後の方針について次回理事会で報告いただくこととした。

また、2023 年度の委員会収益が 80 万円の黒字見込みであったため学会本部からの借受金 130 万円を返金したが、さらに剰余金 250 万円程度あったことから、3 月 6 日付で当該剰余金を返金手続きした旨が報告された。

さらに、2024 年度の臨床 ME 認定士合同認定委員会の委員長として、堀 純也 先生が選任された旨が報告された。

14. 投稿規定及びITA改定について、ABEの他学会との連携方針について【審議F】

横澤 理事

まず、生体医工学誌投稿規定および Advanced Biomedical Engineering 誌の Instruction to Authors 改定について、第 4 回理事会で承認された会員価格の適用条件を加筆した旨が報告された。
生体医工学誌の掲載料の会員価格（1 頁あたり 20,000 円）については、投稿時までに入会を申請した場合に適用するが、採択時までに理事会で入会が承認されていない場合は会員価格を適用しないこととした。
また、Advanced Biomedical Engineering 誌については、Article Publishing Charges 費用として、First author もしくは Corresponding author が本会会員である場合には無料、それ以外の場合には 1,000 USD として、いずれも 4 月 1 日から適用したい旨が報告された。
上記について、全会一致で承認された。

次に、ABE への他学会の特集号掲載について、第 4 回理事会で承認された内容について日本コンピュータ外科学会（JSCAS）側と 2/14 に Web 会議を開催した旨と、そこで出た意見に基づいて、以下の ABE 誌の他学会との連携基本方針案が提案された。

連携する学会
編集委員会を有し、和文または英文誌を定期刊行していること。

編集体制
- 編集長は ABE 側で指名
- 編集委員（Editor）は連携学会主体で編成（基本的には生体医工学会会員とする）

編集長を ABE 側から指名するのは、編集方針や論文の質担保について生体医工学会に責任があるため。実務上の副編集長を連携学会側から出すことはあり得る。

掲載費用の負担

- First author と Corresponding author がいずれも生体医工学会会員ではない場合：規定額（現状 1 論文当たり 1,000 USD）を著者に請求する。
- First author または Corresponding author が生体医工学会会員の場合：著者は無料。刊行の実費（現状 1 論文当たり 10 万円）を連携学会が負担する。

掲載方法

連携学会名を冠した特設ページを設け、必要に応じて序文を掲載する。なお、連携学会が希望した場合、早めに採録が決まった論文はページ番号を付さずに公開し、一定期間経過後（または一定論文数が公開された後）特設ページを設けてその中のページ番号を付するものとする。

上記に対して、編集に係る費用増、最初の電子公開時期からページ番号が付された号が発刊されるまでの期間が 1 年以上空いてしまうことが懸念として指摘された。これに対して、原則として 1 年以内を発刊時期とするが、どこを起点とするかは学会ごとに議論する方針として、全会一致で承認された。

15. 2023 年度論文賞について【報告 K-2】　横澤 理事

2023 年度の日本生体医工学会論文賞・阪本賞候補の論文選定結果について報告された。

本年度は自薦がなかったため、編集委員会から推薦のあった生体医工学 2 本、ABE2 本の計 4 本の論文について選定委員による投票を行い、最多の 8 票（定数 19 中投票 16、利益相反による辞退 1、期限までの投票なし 2）を得た以下の論文が候補として選定された。

論文名：Acute Effect of Treadmill Walking under Optic Flow Stimulation on Gait Function in Individuals with Stroke and Healthy Controls
著者：Sinan ZHANG, Daigo ITO, Ryo OGURA, Takanori TOMINAGA, Yumie ONO
掲載号：Advanced Biomedical Engineering, Vol. 11, pp. 179-185
上記に対して、全会一致で承認された。

16. 令和 6 年度北陸支部長交代について【審議 V-1】　高田 北陸支部長

北陸支部長の交代について報告された。日本生体医工学会北陸支部では 2 年おきに支部長を交代しており、北陸支部会（2023 年 12 月 3 日）において次期（令和 6 年度）支部長に中島 一樹理事を推薦し、総会（同日）にて承認を得たことが報告された。これについて審議され、全会一致で承認された。

17. インセンティブ資金延長申請，選奨の報告と申請【審議・報告 V-2】　杉本 関西

支部長

まず2022年に関西支部へ交付したインセンティブ運用資金の延長申請について審議された。

第60回日本生体医工学会大会の黒字分として2022年に申請していたインセンティブ運用資金について、金額の確定等に時間を要したことから前回理事会での交付確定となった。そのため、使用額は 3,000 円であることから、2022 年インセンティブ運用申請金額 200 万円のうち残金199.7万円について延長申請がされた。使途は以下のとおりである。

1. 学生会員の増員と維持を図る活動（69.7万円）
   学生会員が本学会大会やシンポジウムで発表する際の奨励金、学生会員が初めて英語論文を書く際の補助(英文校正費など)や学生にとって魅力あるチュートリアル講演会の開催など，学生会員の増員と維持を図り，支部活動の発展につなげる。また、若手新規会員勧誘のためにホームページ等を通じた広報を拡充する。
2. 支部行事拡充費用（70万円）
   支部講演会等の行事をより魅力あるものとするために、海外からの講師招聘など通常より経費を要する企画を実現する。
3. 次期全国大会・生体医工学シンポジウム開催へ向けた準備金（60万円）
   次期大会やシンポジウムまではまだ期間があるが、オンラインやハイブリッドなど学会のありかたが大きく変わってきているため、今後のありかたを含めた調査・研究を行う。支部行事において様々なあり方をテスト運用・模索する。

この申請について、全会一致で承認された。

次に日本生体医工学会関西支部若手国際化基金国際会議参加助成について選奨結果が報告された。1件が採択され、瀬川 新 先生（Unsupervised lung lesion detection on FDG-PET/CT images by deep image transformation-based 2.5-dimensional local anomaly detection, SPIE Medical Imaging 2024）に5万円の助成が行われた旨が報告された。さらに、助成者に報告会も行っていただいた他、助成者は当該学会でポスター賞も受賞されるなど大変有意義な結果となった旨も併せて報告された。

最後に、同若手国際化基金国際会議参加助成について 2024 年度の選奨申請が審議された。ただし、従来の賞は渡航費の一部の助成であることを明記していたため、受賞者には利益がなく指導教員のみが利益を得る形となっていた。そのためも 2024 年度より名称を「日本生体医工学会関西支部若手国際化基金奨励賞」と変更し「助成」という文言を削除したうえ、「渡航費の一部」という文言も説明より削除する旨が説明された。また、変更に付随して関西支部の選奨細則について一部変更を行い、助成から賞に変更したことから受賞資格より「関西支部所属」という制限を撤廃したことも併せて報告された。

選奨・受賞細則に関しては関西支部の持ち物であるため理事会での審議は不要である。また、選奨申請は全会一致で承認された。

18.贈賞報告，及び次年度の贈賞について【審議・報告 V-3】　松本 理事（兼 東海支

部長）

まず、第 38 回日本生体医工学会東海支部大会で設ける東海支部大会研究奨励賞の選奨申請について審議された。2024 年 10 月に岐阜で開催予定の東海支部大会における選奨であり、贈呈品としては賞金 1 万円、記念品等はなしである。この申請は全会一致で承認された。

次に、第 37 回日本生体医工学会東海支部大会での選奨結果について報告された。受賞者は古谷 陽菜 先生（藤田医科大学大学院）とキム・ジョンヒョン 先生（名古屋大学大学院）である。報告書の「受賞者（論文）」の欄に論文タイトルの記載がなかったことから、論文名の追記が依頼され、追記を前提として承認された。

19. PCO との契約書・移転日と移転先所在場所について【審議 W-1】　PCO 松澤様

2024 年度より事務局が PCO 社に移行することに伴う契約書等の内容について審議された。

業務等の詳細は基本的には学会支援機構への委託内容と同等のもので開始し、後ほど効率化を図っていく旨が説明された。

事務局移転日は 2024 年 4 月 1 日で、移転先の住所については「〒930-0004 富山県富山市桜橋通り 2-25 富山第一生命ビルディング 1 階」で登記することが報告され、承認された。なお、住所については「株式会社 PCO 内」との記載は必要ないのか質問され、必要ない旨が説明された。

20. 大阪歯科大学 TRIMI 事業化研究推進センター公開講座・応用ゼミについて【審議 W-2】　黒田 理事長

大阪歯科大学 TRIMI 事業化研究推進センターからの、公開講座に対する協賛依頼について審議された。当該講座は、2022 年に創設された大阪歯科大学医療イノベーション研究推進機構（TRIMI）事業化研究推進センターの実施する公開講座として、医療機器の薬事開発や製品の事業化等について、本学内外の受講者に門戸を開いた公開講座である。当該ゼミは、本学教員と各回異なる外部招聘講師で実施され、外部招聘講師は、国の機関、大学・研究機関、企業等で多彩な経験を持つ講師から人選し、現職及び過去の経歴等を踏まえて、医療機器等の薬事開発・製品の事業化やそれらに関連するテーマについて講演を行う。さらに、外部招聘講師及びその講演に関連する内容のディスカッションを本学講師（TRIMI）や受講者とともに行う時間を設けて、医療機器等のレギュラトリーサイエンスや事業化等について、理解を深めることを目的としている。協賛について、全会一致で承認された。

21. 『ME の基礎知識と安全管理（改訂第 8 版）』契約書内容について【報告 W-3】

黒田 理事長

『ME の基礎知識と安全管理（改訂第８版）』の出版に係る南江堂との契約書の更新について報告された。条件等の大きな点に変更はなく、引き続き契約する旨が説明された。この契約書は理事長が変更となる度に作成する必要があるのか質問され、法律等の関係で理事長の個人名で契約しなければならないと思われる旨が説明された。

22. 第 64 回東レ科学技術賞等のご案内状について（欠席）【報告 W-4】　黒田 理事長

第 64 回東レ科学技術賞の贈呈式への案内状について報告された。以前同賞に対する応募者へ本会が推薦を行ったことに起因するものであるが、当該応募者は残念ながら受賞とはならなかったため、贈呈式についても欠席とする旨が説明された。

23. 広帯域極限電磁波生命理工連携拠点設置に係る要望書について【報告 W-5】　黒田 理事長

広帯域極限電磁波生命理工連携拠点設置に係る要望書について報告された。神戸大学分子フォトサイエンス研究センター、福井大学遠赤外領域開発研究センター、徳島大学ポスト LED フォトニクス研究所、神戸大学バイオシグナル総合研究センター、神戸大学未来医工学研究開発センターの 5 施設は、ネットワーク型共同利用・共同研究拠点「広帯域極限電磁波生命理工連携拠点」として、令和 7 年度の認定を目指して文部科学省による共同利用・共同研究拠点の認定制度へ申請準備中である。これに伴い本会を含めた複数学会から要望書を提出することが検討されていることが説明された。内容について問題や本会への悪影響はないため、承認して要望書を提出した旨が報告された。

24. 第 91 回日本医学会定例評議員会について【報告 W-6】　黒田 理事長

第 91 回日本医学会定例評議員会の内容について報告された。重要な点として、学会名称の変更時の手続きについて、日本医学会からの要請が説明された。詳しくは以下の通りである。

日本医学会分科会の名称変更の際の対応

1）名称変更希望分科会は、名称変更についてはかなり慎重に行っていただく。

2）名称変更希望分科会は、名称変更の 1 年前までに日本医学会にご連絡をいただく。

3）日本医学会事務局は、全加盟分科会に名称変更の希望があることを周知し、半年間の公知期間を設ける。

4）日本医学会事務局は、名称変更によって問題が生じる可能性のある未加盟学会の意向について加盟分科会に聴取し、必要と判断した際は、変更希望分科会は、当該学会との間で合意を得ていただく。

（異議なしの場合）

1）公知期間に特段の異議がない場合には日本医学会加盟検討委員会で名称変更に関する審議

を行う。

2）日本医学会幹事会ならびに日本医学会定例評議員会にて承認を得る。

3）可の場合は他の加盟分科会に知らせる。

（異議ありの場合）

1）加盟分科会から異議の申し立ての発生。

2）加盟他分科会から異議の申し立てがあったことを名称変更希望分科会へ周知し、名称変更希望分科会から異議申し立てに対する意見書を日本医学会に提出していただく。

3）異議の申し立てのあった分科会から異議申し立てと意見書の提出の上、日本医学会加盟検討委員会を開催し、対応を協議する。

4）必要があれば両分科会からヒアリングを行い、日本医学会加盟検討委員会の立会いの下，当該分科会同士で討議する。

5） 合意が得られれば日本医学会幹事会ならびに日本医学会定例評議員会にて承認を得た上で、両分科会へ通知する。

6）分科会間の合意が得られず、異議申し立てについて妥当と判断された場合には名称変更希望分科会は、名称変更を取り下げるか、合意が得られる新たな名称を提案していただく。

また口頭で、日本医学会総会が大阪で開催され、坂田 理事が準備委員長をされていること等が報告された旨が説明された。

25. 入退会報告【報告・審議 X-1】学会支援機構　山崎様

入会希望者が 9 名のうち、前回から略歴書を求める連絡を 3 度以上している熊本大学の川島 悠雅 先生および安東 昂亮 先生（所属不明）は、未だ連絡がつかない旨が報告された。年度末であるため略歴書の要求を打ち切ることが提案されたが、10 月に入会申請をしていることから、生体医工学シンポジウム参加に際して、学生料金の適用等の金銭的利益を享受している可能性への懸念が表明された。しかし、生体医工学シンポジウムの参加費は一般と学生の区分のみであるため、入会申請をしたことによる金銭的利益は認められないことが確認された。また、連絡方法についてメール以外の手法も用いることが提案されたが、申請内容に電話番号がなく難しいことが確認された。そのため、本件については深追いをせず、最終の連絡メールを今一度送り、これを以って対応を打ち切ることが決定された。なお、川島先生の指導教員である稲田 シュンコ アルバーノ 先生に関しては以前、森 健策 先生の元でポスドクをしていたため、森 先生からも 1 度稲田 先生に照会いただくことが要請され、承諾された。

また今後の入会申請に際し、事務局から連絡がなかった場合は申請者側から事務局へ連絡するように文言を追加することが提案され、今後事務局と相談していくことが確認された。

略歴書の提出があった ME の佐々木 拓海 先生については、全会一致で入会が承認された。

退会希望者 10 名については、名誉会員への推戴基準に適合する方や推戴の要求はなかったため、全員の退会が全会一致で承認された。

26. 第 63 回大会進捗報告【報告 U】　家入 第 63 回大会大会長

2024 年 5 月 23 日（木）～25 日（土）にかごしま県民交流センターにて開催予定の第 63 回日本生体医工学会大会の準備状況について報告された。

日程表が 3 月 8 日に公開され、現在座長の調整中である。会費については今回から適格請求書を含んだ金額設定である旨が説明された。演題は、最終的に 37 企画セッション、30 オーガナイズドセッション、7 シンポジウムが予定されており、一般演題が 326 演題となっている。またポスター発表については、コアタイムの不足が予想されることから自由討論の時間を設けており、その時間での活発な議論を推奨する旨が説明された。

懇親会は 2 日目の総会後に開催予定である。昼食は予約制の 3 日間日替わりのお弁当が設定されているほか、会場近くにも昼食店がある旨が説明された。また、今回託児室が設置されており、4 時間未満であれば 2000 円/1 人、4 時間以上であれば 3000 円/1 人で利用可能である。

参加登録については早期割引が 4 月 30 日までであることが再度周知され、年度をまたぐ会計ができない機関もあるため、4 月に入ったら参加登録のリマインドを行うことが再度確認された。

また大会当日の開会挨拶については、黒田理事長が参加できないため原口副理事長が担当する旨が説明された。

議事録署名人

議事録署名人

議事録署名人